# 第二回 NSP時局ならび日本再生戦略講演会

# 地域のひな型研究会ディスカッション資料

平成27年2月14日

特別は、日本再生プログラム推進フォーラム

三上靖彦

# 日本再生プログラム(20120922)

### はじめに「

### このままでは私たちの社会は持続できない、破局を避けることは出来ない

### 未曽有の大震災から学ぶこと⇒今が変わるチャンス

- ・災害の危険性のない暮らしを ・未知なるものへの畏敬の念
- ・大量輸送に頼らず地産地消を ・元気で豊かなコミュニティを
- ・戦略的低エネルギーへの挑戦、そしてその実現を・・

### 震災は、時代の流れを加速させた

- ・衰退しつつあった地域が加速度的に衰退するか。
- ・新しい時代に向けての可能性を劇的に伸ばすことが出来るか。
- ・震災からの復興は「21世紀らしいまちづくり」を促進。

### 21世紀らしいまちづくり

- ・不安定なエネルギー供給や流通で不便を被るより、劇的な低エネルギー生活と、安心な地産地消の実現に取り組んだ方が、苦労の甲斐がある。
- ・しかも、環境に優しく自然災害とも無縁の国土利用の推進で、私たちは「健康で持続可能性の高い生活」を手に入れることが出来る。
- ・地域における究極の競争力である「個性」を、発展の原動力に。

過去を踏まえ、今という時代を再定義し、未来への方向性を地域全体で合意し、 新しい地域づくりに取り組むべき時は、まさに今!



### 時代認識

### 新しい国づくりに向けての時代認識

- ・政治経済が本格的に行き詰まった今、日本はどうすべきか?
- ・既存の組織は動けない。既存の組織には頼れない。 既存組織を脱却し、自分たちで国づくりを!

### 日本本来の国づくりを!

- ・日本は本来、『お国柄』で国づくりを進め、国を治めた。
- ・官治ではなく、日本古来の民政自治、第二の城下町づくりを! 自分たちで国づくりを!=村の自治!

#### 新しい国づくりへ向けての基本的な認識

### 物質文明は極限まで行きついた

- ・成長志向から選択の時代へ。
- ・物資文明と精神文明の融合と 相乗効果を。

### 行き過ぎから戻ってやり直すという発想で

- ・以前の状態には二度と戻れない、という覚悟で!
- ・新しい文明を創出しよう!

- 界最適生産・最適調達から、<mark>地域・民族ご</mark>との個性化へ。 融と市場原理主義から、<mark>雇用が第一へ。</mark>
- 産と消費から、所得と雇用へ。
- 量・即戦力から、質・熟練へ。
- ・安価で大量の世界調達から、地域自給と戦略的低エネルギーへ。
- ・官と民の対峙の時代から、新しい公共へ。



# 震災と時代認識を踏まえた内需中心の持続的成長を!

# 日本再生の理念(100年ビジョン)

### 本物とは

本物は、 消耗品ではなく、蓄財。 直して使う。 本物を作る人は、

すなわち、熟達職業人。

21世紀は「持続可能性」が大切

# 持続可能性 = 共生 × 進化

時代を越えて存在し続ける本物

### 持続可能性

人・モノ・地球・時代(過去と未来)・物質世界と精神世界との共生による進化は、健康で持続可能性を高め(ロハス的)、破局を避けることを可能にする。

### 和の国・日本(大和)

- ・足し算の文化。
- ・異文化を取り込む。 古代日本×東洋文化 ×西洋文化×未来
- ・他のもの、異なるもの、敵を味方に、
- ・そして、1+1が3に。
- ・完成形はなく常に進化
- ・変わらぬ縦糸と、変化して組み直す横糸。

### 少子高齢化問題の克服を

安心して子供を増やすことが出来るライフスタイルのひな型を示す

### 偉大なる共生社会の創造

-共生とは進化なり-

### 【大切なこと】健康と持続可能性が高いこと

健康や持続可能性を重視するライフスタイル=ロハス (破局を避けることが可能な社会へ=進化)

「<mark>健康」</mark>:いつまでも「元気」でいること。生涯現役で 過ごせるように元気を保つこと。

「持続可能性」: 今ここにいる自分だけではなく、子孫も 元気で暮らせるように環境を守ること。

先祖の財産や知恵を生かしながら、家族や隣近所はもちろん、 ほかの国々、あらゆる動植物、地球、過去と未来とも共生でき る「絆」を保ちながら、常に融合・進化する。

### 21世紀の教育

- 恒心
  - (常に持つ正しい心) (善悪の分かる心)
- ・個の花を咲かせる
- ・チームワーク
- ・ヨコ型リーダーシップ
- ・熟達職業人(一人一芸)

### 100億人を養う世界を

21世紀らしい資源活用、 新しいライフスタイルの ひな型を示す

### 新しい科学技術

スーパーテクノロジー と風土のハイブリッド

- ・ナノテク、発酵技術
- ・素材革命など

### 懐かしい未来(景観10年、風景100年、風土1000年)

過去との絆を持ち、過去から何かを吸収しているものは、未来にわたって存在し続け、見る者に感動を与える美しさがある。

21世紀世界初『戦略的低エネルギー社会』の建設 21世紀の風景「懐かしい未来」は、風土と融け合うものであるが、その陰にはナノテクや発酵技術などの最先端のスーパーテクノロジー、新素材が、快適な生活環境を提供する。低エネルギーでも、今まで以上の豊かさを享受できる。

### 個性は究極の競争力

地域の独自性を活かす風土特色を活かした自立

- ・地産地消
- ・再生可能エネルギー

# 提言(20130415)

# 21世紀の文明開化を基軸とする日本再生戦略

(第1版)

### <タイトル>

### 民衆力再起動

-21世紀の文明開化で全員就業・全員参加の日本再生-

### <基本理念>

日本の歴史を振り返るとき、日本人は古来好奇心が強く、進取の気性に富み、変化に柔軟に適応してきた。しかしその大きな変化のなかにも日本としての一体感、継続性を失なわなかったことは日本の最も強みとするところである。今の日本は、既にたくさんの行き詰まりを見せている明治以降の近代化、西欧文明移入の歴史を超えることが必要である。新しい日本、すなわち21世紀の文明開化として健康で持続可能な全く新しい文明の構築を、主権の存する日本国民の力で世界に先駆けて推進し、それを世界に提案してくことが今後の日本の使命であると確信する。

### <これから30年間の日本の国家目標>

21世紀らしい健康で持続可能な完全就業・完全参加社会をまず日本で実現し、世界に提案すること。それを実現するために21世紀の文明開化として、日本の国土利用、衣食住、生活スタイル、就労、企業活動、産業、エネルギー、資源、食料、教育、社会保障、安全保障など、あらゆる面を健康と持続可能な形に変化させていくこと。

# 日本再生のイメージ

#### 【「富貴のこころ」より】

#### 藤原直哉(理事長)著 1997年

- ・日本は農業と観光の国になっている。
- ・地球の温暖化によって東北、北海道で農業生産力が一段と高まり、新しい農業の中心地帯になっている。
- ・日本の農業は労働集約型で、いいものを 少し食べるという日本人のライフスタイ ルに合った個性的な農業が中心である、 農業の担い手は幅広い年齢層にわたって いる。
- ・日本全国の観光地は、自然に親しむという観点から完全にリストラが終わっている。
- ・成田空港と関西空港から日本中の観光地 へ外国人が迷うことなく移動できる体制 が整っている、公共交通機関と道路の表 示はすべて日本語と英語の二カ国語であ ス
- ・日本は仮想現実の世界を作る種となるリアリティーを提供する国となっている。たとえば美しい自然とか、美味しい食べ物とか、〇と1のコンピュータの世界では難しい曖昧性あふれる日本語とか……。したがってクリエイティブな仕事をする芸術家が世界中から日本に集まってくる。
- ・日本には世界各国からの外国人がたくさん住んでいて、彼らの多くは芸術家と研究者と教師である。一方、日本を訪問する外国人の多くは観光客である。
- ・ソフトウェアの開発は芸術家の仕事になっている。
- ・東京は世界中から芸術家が集まって世界 に向けて芸術を発信する芸術発信都市に なっている。
- ・大阪はアジアのビジネスセンターのひと つになっている。特にアジアで成功した 人たちが住む憧れの場所になっている。
- ・沖縄はアジアの超高級リゾートになっていて、週末には東南アジアから多くの人たちが飛行機で訪れる。沖縄の米軍航空基地跡地は、海外からやってくる観光客用の飛行機の発着場やホテルなどの施設となっている。

#### 【イメージ】(日本再生とは未来を具体的に創ること)

### 『光に満ちた日本』

『森に浮かぶ国、日本』

### 『自然と共にある国、日本』

健康と環境のことを大切にしながら、ずっとみんなで心豊かに過ごせる。昔ながらの「暮らし」そのもの。 それは、究極の競争力である個性をベースにした、

### 「懐かしい未来」。

街にも村にも懐かしい光が満ち、人々はその土地の自然と 衣食住を満喫しながら光り輝き、家族と地域を大切に和気 あいあいと暮らしている。

そこでは、いいものを少しずつ食べるという品の良さや、 物を直しながら長く大切に使うという配慮の気持ちを取り 戻している。

その土地ごとの自然、歴史、人が輝き、その光を浴びよう と、人々が集まってくる。

#### 【手 本】昭和30年代の日本を一つの手本に(+進化)

(風景、エネルギー量として)

<u>風景</u>:低層の建物が主体で空が広く、遠くの自然がランドマーク※3丁目の夕日、トトロのイメージ

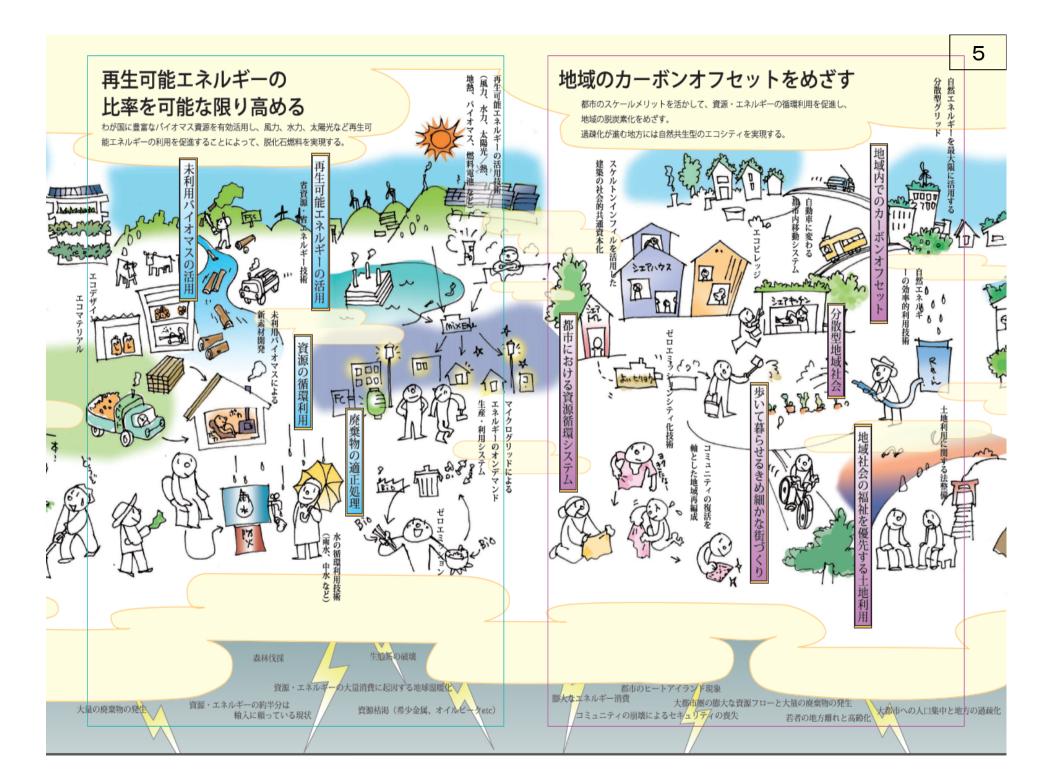
環境:小川のザリガニ、カエル。雑木林のカブトムシ、 クワガタ、セミ、チョウ。路地裏での遊び。原っ ぱでの野球や缶けり。鎮守の杜や夏祭り。

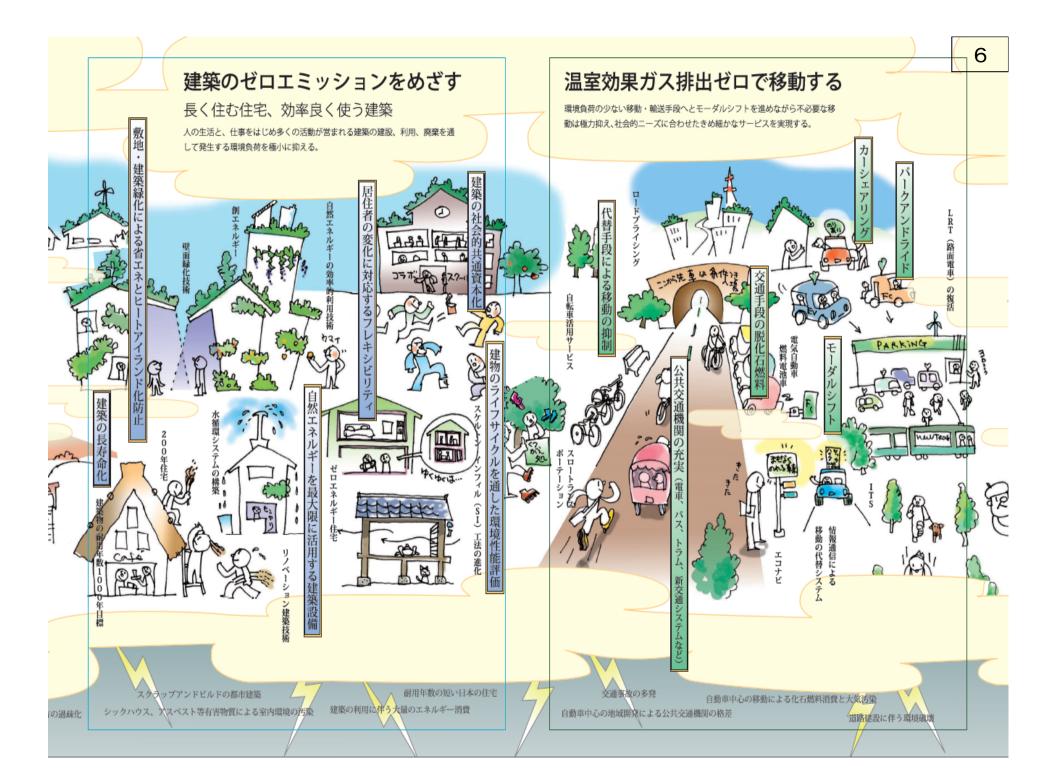
街の姿: 空間的コンパクト: 短い通勤時間、日常生活拘束時間にゆとり。居住地選択の自由度の高さ。徒歩 圏内にある多様な施設。

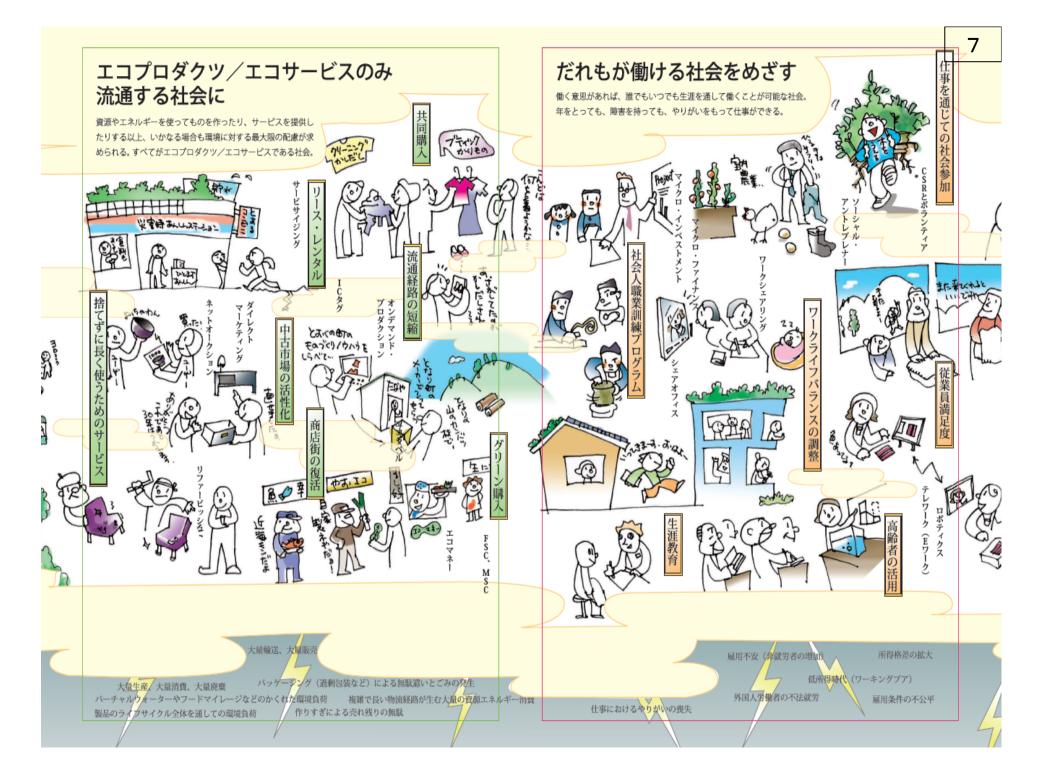
機能:自動車交通の制御可能。市民が楽しめる施設が多く、容易に建設し易い、機能が集積している(市民会館、博物館、美術館、図書館)。自然レクリエーションへの接近度が高い。独自の歴史や文化、伝統を大切にした、風土性豊かな街。

進化:土地条件を踏まえ、自然災害に縁のない国土利用。 新素材等により、低エネルギーでも今より豊かに。

- 日本の首都は東北の山中に移転している。
- ・京都と東北の新首都に皇居が設けられ、皇室の 伝統的な儀式は京都で行い、現代的な外交儀式 は新首都で行う体制が整っている。
- ・京都は皇室が伝統的な儀式を行う場所として 大々的に再開発が行われ、伝統工芸の工房がで き、日本の伝統的な芸事のプロが集まり、リア リティーあふれる歴史と伝統の町として再出発 している。
- ・東京の皇居跡地は公園となり、永田町、霞が関から皇居まで、連続した巨大な公園となっていて、そこには、武蔵野の雑木林(自然の複雑性の見本)が大々的に復元されている。
- ・その雑木林の中には芸術的な仕事をする人たち のための独創的なアトリエがあちらこちらに設 けられ、そこで仕事ができることが世界中の芸 術家の憧れの的となっている。
- ・世界中に日本語を教える日本語学校があって、 たいへんはやっている。
- ・日本国内には英語を教える英語学校があって、 たいへんはやっている。
- ・日本人の半数は常に海外で生活したり働いている。
- ・義務教育は10年間に短縮され、それ以降の教育は年齢に関係なく、いつでも好きな教育を受けられるようになっている。社会人も学校へふつうに通う時代になっている。日本にはあらゆる種類の学校があり、海外に留学する人も飛躍的に増えている。
- ・日本の若物は国内の学校を卒業した後、一度は 海外の学校に留学し、35~40歳頃まで海外 で働くことが常識になっている。
- ・日本では車や電気器具をはじめとした耐久消費 財、また衣料品や事務機など、腐らないものの ほとんどはリサイクルによって長期間使われる。 また日本にはあらゆるものを改造して使うため の改造ショップがたくさんある。
- ・日本の企業は、世界規模で活躍する大規模多国籍企業が展開するフランチャイズと、独創的な商品に絞ったり、営業範囲を狭く限った小規模企業の二極分化しており、消費者にとってはその両方を組み合わせることでとても安価かつ個性的で質の高い生活を行うことができるようになっている。







# 地方創生(まち・ひと・しごと創生)

### 国の目指す「地方創生」・・・。

人口急減・超高齢化という課題に対し、 地域がその特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生しよう・・。 今までも様々な施策が講じられてきが、結果的に、地方は衰退、消滅するかも。 それでは、今後、どうすれば失敗しないか。

### 1脱·大企業

大企業が潤えば、そのうち中小企業も潤う、なんて幻想は捨て、中小企業からの再生・創生を。中小企業から全国へ、そして世界へ。

### ②脱·東京

東京が潤えば、そのうち地方も潤う、なんて幻想は捨て、地方からの再生・創生を。地方から全国へ、そして世界へ。

### ③脱・モデル

特区を含め、どこかで成功したモデルを模倣すれば自分の地域も成功する、なんて幻想は捨て、地域独自の個性、地域独自の人材で勝負を。

### 4脱·近代化

清潔さや利便性、「今だけ金だけ自分だけ」を求めた結果としての近代化が、幸福をもたらす、なんて幻想は捨て、ロハス的な地域づくりで真剣勝負を。

### 5 脱·都市間競争

他の地域との比較優位性が幸福をもたらす、なんて幻想は捨て、自分たちが自分たちの地域を満喫することで、健康で持続可能な豊かさを。他の地域はともかく、衣食住のあらゆる面で、自画自讃的に。

### まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」と「総合戦略」の全体像

資料4-2

### 長期ビジョン

### 総合戦略(2015~2019年度の5か年)

中長期展望(2060年を視野)

### <u>I.人口減少問題の</u> 克服

<u>◎2060 年に1億人程度</u> の人口を維持

### ◆人口減少の歯止め

- ・国民の希望が実現した 場合の出生率(国民希望 出生率)=1.8
- ◆「東京ー極集中」 の是正

### Ⅱ.成長力の確保

<u>◎2050 年代に実質 GDP</u> <u>成長率 1.5~2%程度維</u> 持

(人口安定化、生産性向上が実現した場合)

#### 基本目標(成果指標、2020年)

「しごと」と「ひと」の好循環作り

#### 地方における安定した雇用を創出する

- ◆若者雇用創出数(地方)
- 2020 年までの5年間で30万人
- ◆若い世代の正規雇用労働者等の割合 2020 年までに全ての世代と同水準 (15~34 歳の割合:92.2%(2013 年) (全ての世代の割合:93.4%(2013 年)
- ◆女性の就業率 2020 年までに 73% (2013 年 70.8%)

#### 地方への新しいひとの流れをつくる 現状:東京圏年間 10 万人入超

◆地方·東京圏の転出入均衡(2020年) ・地方・東京圏転入 6万人減 ・東京圏・地方転出 4万人増

#### 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を かなえる

◆安心して結婚・妊娠・出産・子育てできる社会を 達成していると考える人の割合

40%以上(2013年度 19.4%)

- ◆ 第 1 子 出 産 前 後 の 女 性 継 続 就 業 率 55%(2010 年 38%)
- ◆結婚希望実績指標 80%(2010 年 68%)
- ◆夫婦子ども数予定(2.12)実績指標 95%(2010年93%)

好循環を支える、まちの活性化

### 時代に合った地域をつくり、安心な暮らし を守るとともに、地域と地域を連携する

◆地域連携数など ※目標数値は地方版総合戦略を踏まえ設定

#### 主な重要業績評価指標(KPI)(※1)

農林水産業の成長産業化 6次産業市場 10 兆円: 就業者数5万人創出

訪日外国人旅行消費3兆円へ(2013年1.4 兆円):雇用数8万人創出

地域の中核企業、中核企業候補 1,000 社 支援:雇用数8万人創出

地方移住の推進

:年間移住あっせん件数 11,000 件

企業の地方拠点機能強化 拠点強化件数7.500件、雇用者数4万人増加

地方大学活性化:自県大学進学者割合平均 36%(2013 年度 32.9%)

若い世代の経済的安定: 若者就業率 78% (2013年 75.4%)

妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援 :支援ニーズの高い妊産婦への支援実施 100%

ワーク・ライフ・バランス実現:男性の育児 休業取得率 13%(2013 年 2,03%)

「小さな拠点」の形成

定住自立圏の形成 協定締結等圏域数(140 圏域)

既存ストックのマネジメント ・中古・リフォーム市場規模 20 兆円 (2010 年 10 兆円)

※1 Key Performance Indicator の略。政策ごとの達成すべき成果目標として、日本再興戦略(2013年6月)でも設定されている。

#### 主な施策

- ①地域産業の競争力強化(業種横断的取組)
- ・包括的創業支援、中核企業支援、地域イノベーション推進、 対内直投促進、金融支援
- (2)地域産業の競争力強化(分野別取組)
  - ・サービス産業の付加価値向上、農林水産業の成長産業化、 観光、ローカル版クールジャパン、ふるさと名物、文化・芸術・ スポーツ
- ③地方への人材還流、地方での人材育成、雇用対策
- ・「地域しごと支援センター」の整備・稼働
- ・「プロフェッショナル人材センター」の稼働

#### ①地方移住の推進

- ・「全国移住促進センター」の開設、移住情報ー元提供システム整備
- ・「地方居住推進国民会議」(地方居住(二地域居住を含む)推進)
- ・「日本版 CCRC※2」の検討、普及
- ②地方拠点機能強化、地方採用-就労拡大
- 企業の地方拠点強化等
- ・政府関係機関の地方移転
- ・遠隔勤務(サテライトオフィス、テレワーク)の促進
- ③地方大学等創生5か年戦略

### ①若者雇用対策の推進、正社員実現加速

- ②結婚・出産・子育て支援
- 「子育て世代包括支援センター」の整備
- ・子ども・子育て支援新制度の円滑かつ持続的な実施
- ·多子世帯支援、三世代同居·近居支援
- ③仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現(働き方改革)
- ・育児休業の取得促進、長時間労働の抑制、企業の取組の支援等
- ①「小さな拠点」(多世代交流・多機能型)の形成支援 ②地方都市における経済・生活圏の形成(地域連携)
- ・都市のコンパクト化と周辺等のネットワーク形成
- ・「連携中枢都市圏」の形成、・定住自立圏の形成促進
- ③大都市圏における安心な暮らしの確保
- ④既存ストックのマネジメント強化

※2 米国では高齢者が移り住み、健康時から介護・医療が必要となる時期まで継続的なケアや生活支援サービス等を受けながら生涯学習や社会活動等に参加するような共同体 (Continuing Care 程せずment Community) が封2 000 カデある。

# よく見られる行政主体の課題

# 総花的

- ・雇用確保と海外進出支援の矛盾
- ・中国組のUターンの誘致と、空地への太陽光パネル設置の動き
- ・全分野にわたる公平平等な計画づくりで重点が見えない

### 原因と結果のズレ

- ・暮らしと景観:その土地での人々の暮らしの結果としての景観
- ・暮らしと観光:その土地らしさを満喫してこその豊かさと観光
- ・中心性と中心商店街:中心性のある市街地あってこその商店街
- ・行革とデータ統合:行革が進むと、部署間のデータ統合も可能

# アウトプット指標とアウトカム指標のズレ

- ・様々な生活提案の報告書・手引書と、実際的な活用のギャップ
- ・いくらお金をつぎ込んでも、一向に豊かさに繋がらない

## 前例主義や選挙前の竣工式

# 新しい芽

# 古くて新しい発想(新しいようで、実は古くからの発想)

- ・ロハス:昔ながらの日本人の暮らしぶりそのもの
- ・新しい公共:昔は官民一体で道普請などを行った
- ・コンパクトシティ: 昔はどこも徒歩圏で完結していた
- ·LRT:昔の大切な公共交通機関は路面電車
- ・中活法:市街地開発事業と産業活性化が一体に
- ・歴史まちづくり法:ハードとソフト一体の保全は当たり前
- ・日本風景街道:通過型から昔ながらの沿道活用型へ
- ・児童公園から街区公園へ:児童公園の考えを修正

# 幸福度についての関心(トレンドとして?)

- ・市町村や都道府県の総合計画に「幸福度」が
- 「何があるか」から「何を満喫しているか」へ。※しかし、どちらかと言うと「トレンド」としての扱いか

# 都市計画とは

都市計画=都市の将来目標達成のための計画

将来目標達成に向けた都市計画の二つの手法~規制と事業

# <規制>

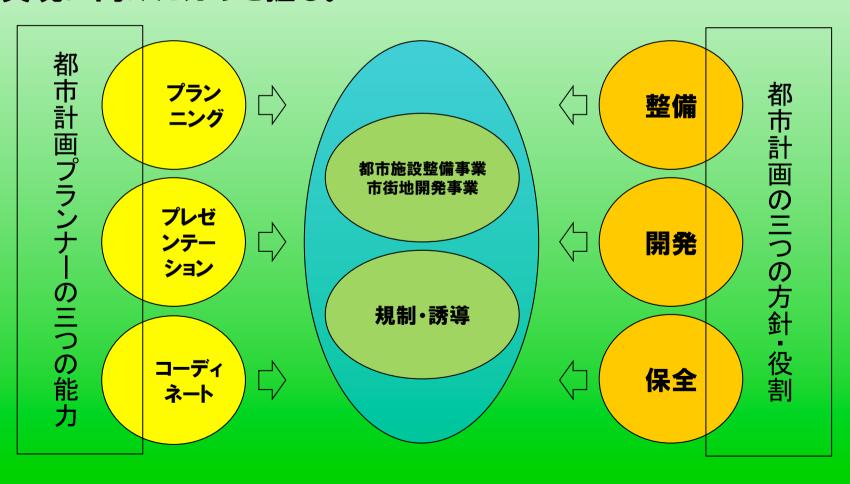
都市、まちは、多くの人々の生活の舞台である。多くの人々が幸せな生活を送ることが出来るため(夢のため)には、最低限のルール、約束事が必要で、それが規制である。市街化区域と市街化調整区域の線引きや用途地域の指定で代表される土地利用計画と、都市計画道路や都市計画公園等の計画決定で代表される都市施設計画等があげられる。

# <事業>

将来目標の達成には、何か具体的なアクション、事業が必要である。それが都市施設の整備であり、また市街地開発事業である。都市計画決定という広い視点で位置づけられた都市施設を各種事業手法によって整備する、あるいは単体の施設だけではなく一つのまとまった地区を総合的に整備・開発する事業を進める。具体的には、都市計画道路や都市計画公園などの都市施設そのものの建設事業と、土地区画整理事業や再開発事業などの市街地開発事業があげられる。

# 都市計画の基本とプランナーの基本的能力

「規制」と「事業」と言う二つの「手法」が、整備、開発、保全という三つの「役割」を持ちながら、複合的、有機的に絡み合い、都市計画は決定され、実践されてゆく。その際、都市計画プランナーとしての3つの能力が実現に向けたカギを握る。



# 都市計画の具体的な内容

都市構成:対象は、複数の市町村、一つの都市、あるいは都市の中の一つの地区である場合もある。対象エリアの将来ビジョンを明確にする。そして、それを達成するためにエリア内の土地利用の方向性や都市施設整備の基本的な考え方を明示する。

土地利用計画:都市構成、ビジョンの検討結果を踏まえ、住宅地や商業地、工業地等の主要な構成要素の配置及び密度について、公共施設の計画との整合性に配慮して定める。土地利用計画は、都市計画の基本あるいは根幹をなすもので、都市のビジョン達成のための、土地利用上の規制と誘導方策を示したものである。

都市施設計画: 都市施設は、都市活動の機能性や都市生活の安全性、利便性、快適性等、都市での生活を円滑に進める上でのサポート施設である。したがって、原則としてエリア内での土地の使い方、生活ぶりが想定された上で検討される計画である。具体的には、道路や公園、下水道、河川等の計画があげられる。なお、都市施設計画が先行し、その有効活用のために土地利用を後追いで検討する場合もある。

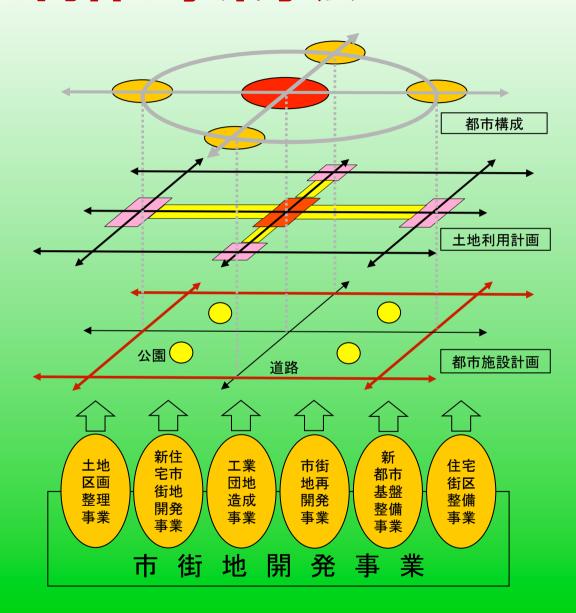
# 都市計画の内容と事業手法

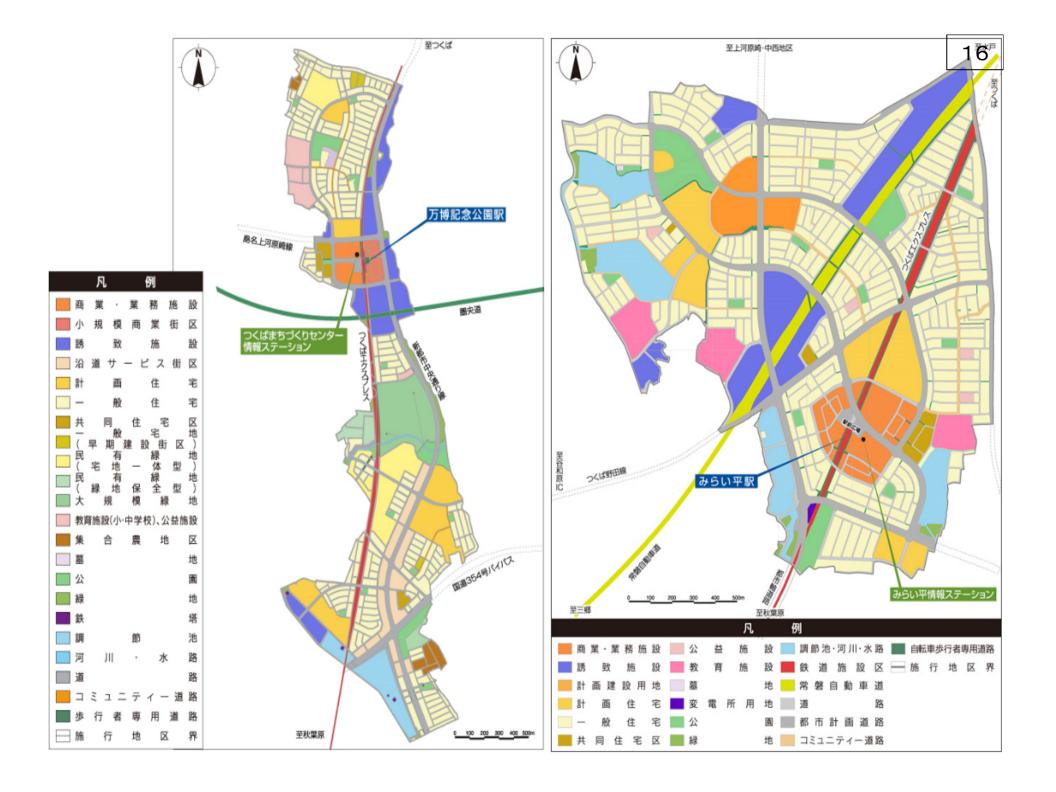
# 個別施設の整備事業

- ·道路事業
- ·街路事業
- ·公園事業
- ·下水道事業
- ・河川事業 など

# 市街地開発事業

- ・土地区画整理事業
- ·新住宅市街地開発事業
- ·工業団地造成事業
- ·市街地再開発事業
- ·新都市基盤整備事業
- ·住宅街区整備事業







### 産業のいま

第一次産業 25.31% (県内2位) 28.71% (県内28位) 第二次産業 第三次産業 44.54% (県内 43 位) 【市民の従業地:行方市】76.9%

うち 自宅 51.9% 自宅外 48.1% (資料) 国調査 (H17, 10, 1 現在)

産業と暮らしが「密着した地域」

でも、相乗効果が発揮されていない



### 多様な産業の連携と観光



産業資源を生かしの

行方の暮らし

P-R

<地域資源としての産業資源と観光の関係図>

産業資源を生かした観光まちづくり。

観光振興の専門家

観

3つの要素を別々にではなく、 (産業振興、観光振興、人づくり) まとめてPRする。



業 産

産業振興の専門家

産業振興のためのより 強固な基盤づくり (雇用の確保、企業回復、商品開発等)

「産業資源」から「観光資源」 に転換

産業資源と 連動した観光

観光振興のためのより 強固な基盤づくり (観光分野の拡大と開拓、人材育成等)

「観光資源」から「産業資源」 に転換



### 人のいま

【人口】38,432人(県内31位) 【世帯】11,617世帯(県内33位) 【世帯人員】3.31人 (県内5位) 【人口密度】231.1人/km2(県内5位) (資料) 茨城県常住人口調査 (H21, 4, 1 現在)

家族で「ゆったり暮らす地域」

でも、元気がない

### 3. 人が主役の

### 観光まちづくり

### 【月 標】

[産業振興からみた観光]

「観光振興からみた産業」 のつながりが見える システムをつくる。

まちづくりの専門家

暮らしの源である産業が生き生きと地域の人が生き生きとするまち

### 2. 従来の観光と 新しい観光スタイル

### 観光のいま

#### 【観光資源】

- ■水辺と丘がつくりだす景観
- ■陸海空の広域交通網

地域が培ってきた文化を 広く伝えることができる場所

でも、地域資源が有効に 活用されていない

#### 観光まちづくりの効果

地域ブランド力の何上

地域産業の発展

住民の郷土意識の何上

の発展 の成長 健康で 持続可能な 行方市

住民の づくりへ 郷土意識 の向上

地域 活性化 地域経済

**奥行きのあるまちづくり** 

- ■一つひとつの商品に、地域との関連性を語る物語がある。 (ここで生まれ、ここで育ち、ここで加工され、ここで売られる)
- ■一つひとつのお店に、地域との関連性を語る物語がある。
- ■一人ひとりに、地域の産業や組織、暮らしや風景との関連性を語る物語がある。■一つひとつの場所や道に、地域のヒト・モノ・コトに関する物語がある。
- ■一つひとつの組織に、地域の産業やヒト、暮らしや風景に関わる物語がある。
- ■一つひとつの地域に、地域のヒト・モノ・コトに関する物語がある。
- ■一つひとつの風景に、地域の産業やヒトとの関連性を語る物語がある。





/交流人口

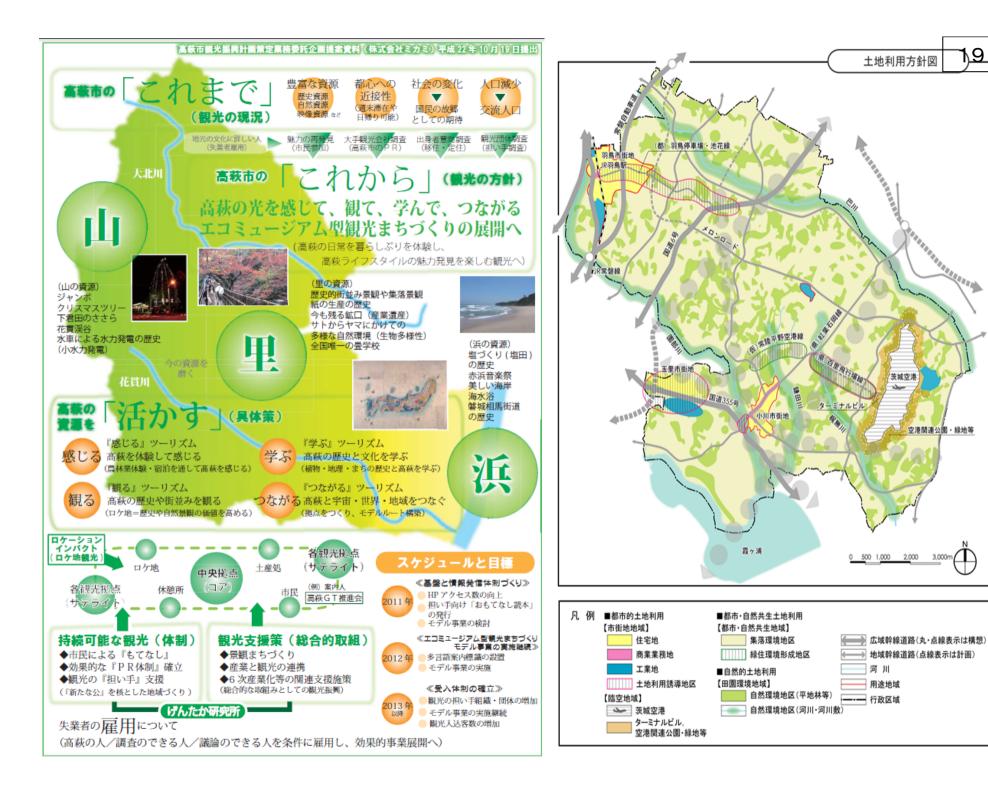
の増加

(観光の発展)

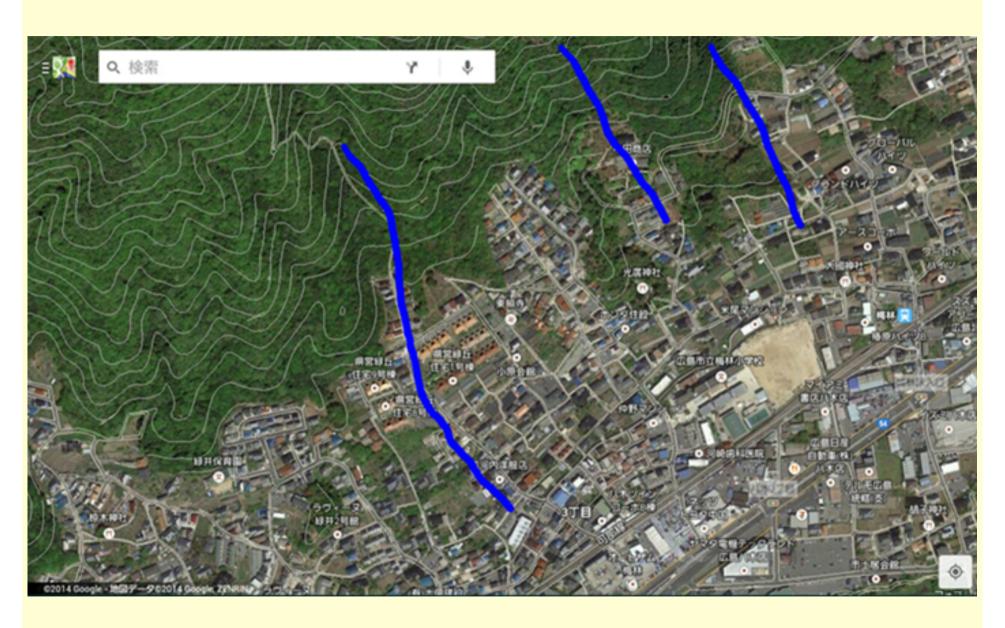
地域

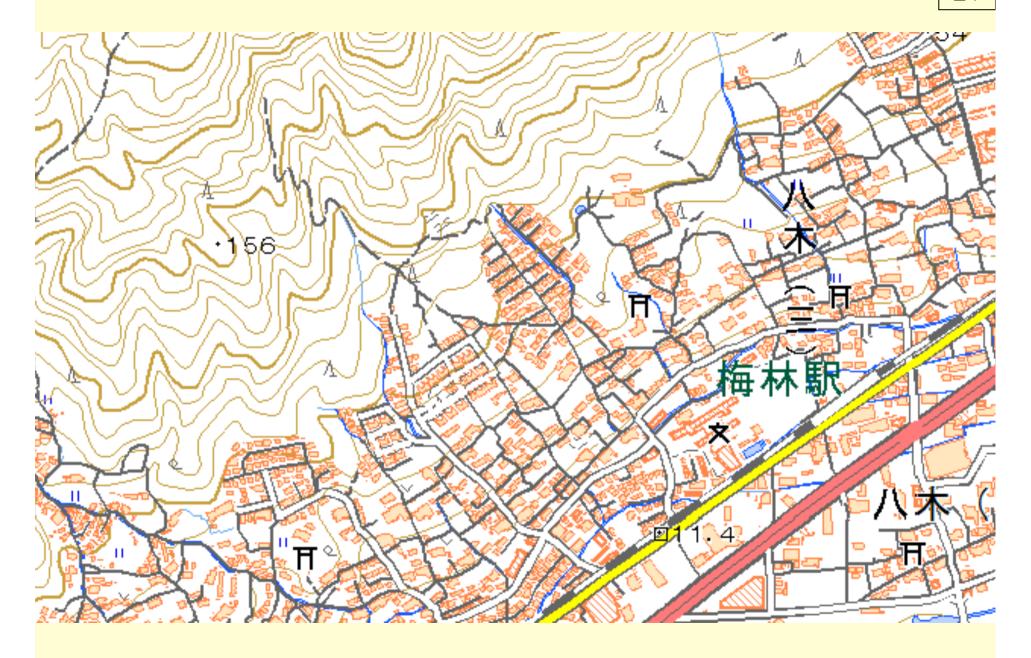
ブランドカ

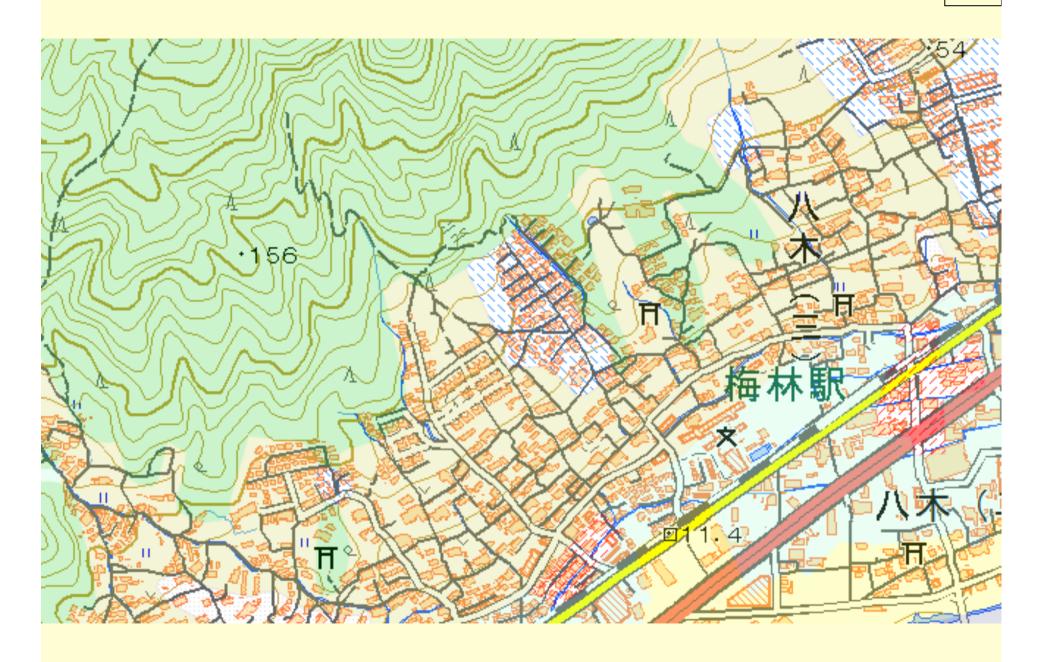
の向上

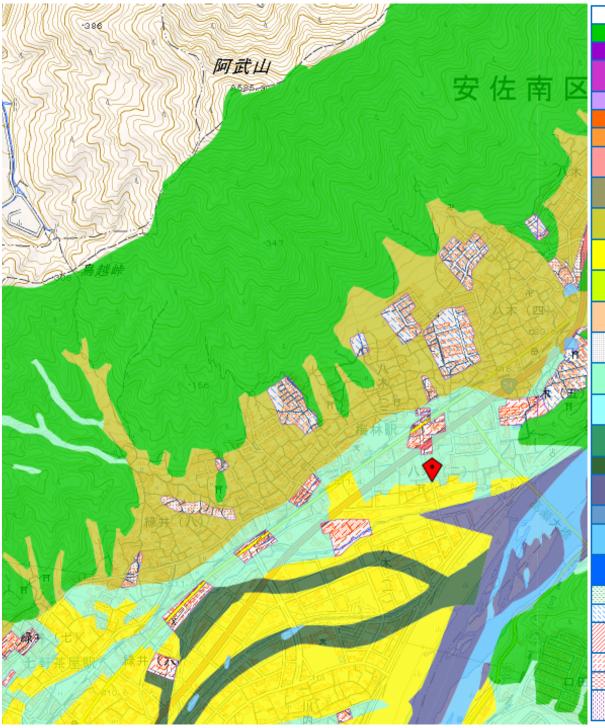


# 平成26年8月の広島県安佐南区の災害









配色	分類項目	説明	强
	山地斜面等	山地・丘陵などの傾斜地	20
	崖	自然にできた急斜面	
	地すべり(滑落 崖)	地すべりの上部に出来た崖	
	地すべり	山体の一部が土塊として移動した地形	
	更新世段丘	約1万年以前に出来た台地	
	完新世段丘	約1万年前から現在までに出来た台地	
	台地·段丘	溶岩により形成された台地や時代区分が明瞭でないもの	
	山麓堆積地形	山麓部に堆積した岩屑等で出来ている 地形	,
	扇状地	山麓部に堆積した砂礫等で出来た扇 状の地形	
	自然堤防	河川の氾濫により運ばれた砂等が、堆 積して出来た微高地	
	砂州·砂堆·砂丘	波浪、沿岸流、風によって運ばれた砂 からなる小丘	
	天井川·天井川 沿いの微高地	周囲の土地より川床が高い河川。その 周辺の微高地	
	凹地·浅小谷	台地・段丘などに細水流や地下水の働 きによって出来た低い所	J
	谷底平野·氾濫 平野	河川の氾濫により形成された平坦地	
	海岸平野·三角 州	過去の海底が陸化した平坦地、河口 部にあって粘土等からなる平地	
	後背低地	自然堤防などの背後にある相対的に 低い箇所。低湿地。	
	旧河道	河川流路の跡	
	高水敷·低水敷· 浜	河川の増水時に水没する部分。高波 で冠水する沿岸の岩場等。	
	湿地	常に土地が湿っているところ	
	河川·水涯線及 び水面	海・河川・湖沼など、現在の水面	
	I日水部	海、池、湖沼などを埋め立てた箇所、 現在は陸地。	
	農耕平坦化地	山地などを切り開いた農耕地。	
	切土地	山地などを切り開いた平地。	
	高い盛土地	高潮、洪水などの防禦のため高<盛土 した土地	
	盛土地·埋立地	土を盛って造成された、平地及び斜面	
	干拓地	水部を干して陸地化した土地	
	改変工事中の区 域	調査時に、土地の改変工事が行われ ていた土地	

# まちづくりとは

# まちづくりを一言でいうと。

地域をより良くしようと思う人たちの活動のすべて。 例えば「水戸の街を明るく元気にするための活動」。 それぞれのまちづくりには「テーマ」がある。

# 何を素材(道具)とするか。

- ・水戸の歴史を活かして・・・。・千波湖をきれいにして・・・。
- ・水戸発祥のオセロで・・・・。・映画で、芸術館を通して・・・。

# 何を狙いどころ(ターゲット)とするか。

- ・商店街の賑わいづくりを・・・。・コミュニティの活性化を・・・。
- ・観光客の増加を・・・。・水戸の知名度を・・・。

# 大きいもの、小さいもの、ソフト中心、ハード中心、など。

- ・J2ホーリーホックを応援することで・・・。
- ・J2ホーリーホック観戦者向けの観光ツアーで・・・。
- ・スタジアムでの特産品販売で・・・。
- ·J1標準のスタジアムづくりで・・・。

# 主体は誰か(誰が責任を負うのか)?

# 行政(公共事業:行政でしかできないもの)

- ・施設整備、基盤づくり・・市民会館、道路、公園(舞台づくり)。
- ・採算性の低いソフト事業・・大きなイベントの仕掛け(みとフェス)。

# 公的団体(観光協会・商工会議所:行政に成り代わってのソフト事業)

・梅まつり、黄門まつり、経営相談、梅大使、黄門料理の普及。

# 業界団体(産業団体に関連する技術的な相談など)

・法律相談、農業指導、家づくり相談。

# 民間企業(自社技術や製品、資源を活用したサービス)

・マラソン大会支援(ポカリスエット)、ゴミ拾い、助成金、など。

# 民間企業(会社の事業:拠点開発、団地づくりなどの開発事業)

・再開発、ニュータウン建設、コミュニティ・スペースの提供。

# NPO等(NPO、青年会議所、ロータリー、ボーイスカウト、など)

・市民と行政の間に立ったソフト、ハードの両面の様々な活動。

# 町内会、商店会(親睦目的の町内会総出の活動、顧客サービス)

・運動会、資源ごみ回収、環境美化活動、スタンプ会。

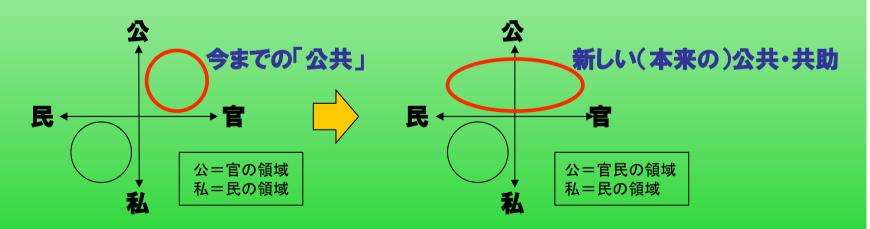
# 市民(大衆ではなく、民衆)

・イベント参加、活動参加、募金、など。

# 新しい公共、共助によるまちづくりの時代

# 新しい公共:自助・共助・公助の中の「共助」

- ・自助を支える共助
- ・「小さな官」のもとでの「豊かな公」を提供する「民」の力
- ・草の根の力、民間資金の活用
- ・官民協働:その基本は民主導。まずは民が動くこと。
- ・後ろから官(資金や制度)がついてくるもの(支援する立場)。
- ・「公」は、昔からそれぞれの立場で、主体性をもってやるべきこと。



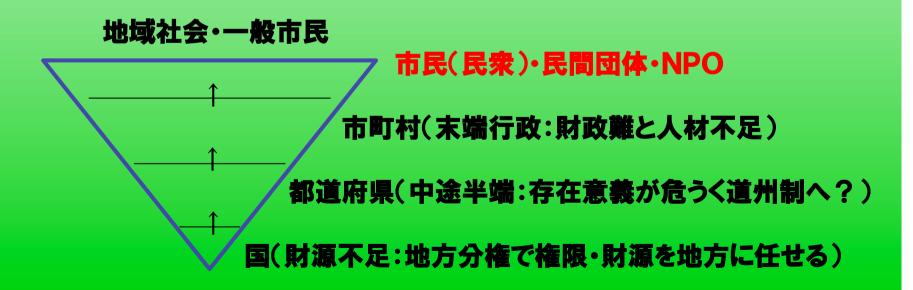
# 新しい公共の領域

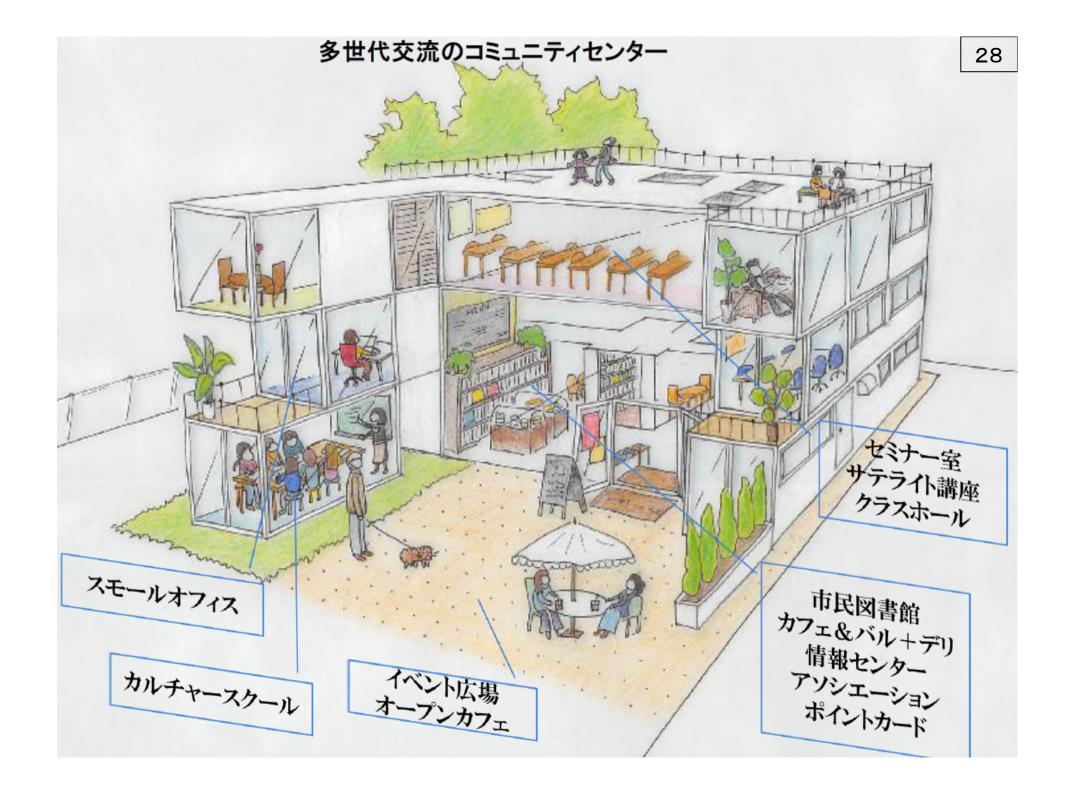
- ・既存の公共事業から始まり、ボランティア的な事業、ビジネスまで。
- ・「儲かるか儲からないか」は別問題。

# 新しい公共=逆さまのピラミッドの時代

# 行政は支援者

- ・民間に主体性を持たせること。
- ・運営、イベントなどのソフト事業は民間に任せ、行政は資金、制度、許認可、人脈などで後押し、支援を。
- ・行政主体のまちづくりには限界がある。成果が上がらない。(アウトプット指標とアウトカム指標)
- ・行政は、行政にしかできないことを。
- ・民間は、ノウハウを蓄積し、継続性を持たせ、経済循環に乗せる。





# WILLのまちづくり活動

# 茨城の美しい景観を守り育てる

平成17年6月24日、茨城県がWILLを景観整備機構に指定。



第一回景観研究会(水戸)



第二回景観研究会(真壁)



重要文化財弘道館の活用

# 水戸の街なか再生を考える

平成20年9月、水戸市がWILLを中心市街地整備推進機構に指定。

平成20年10月、水戸商工会議所とWILLが共同で水戸市中心市街地活性化協議会を設立。



水戸芸術館との連続講座

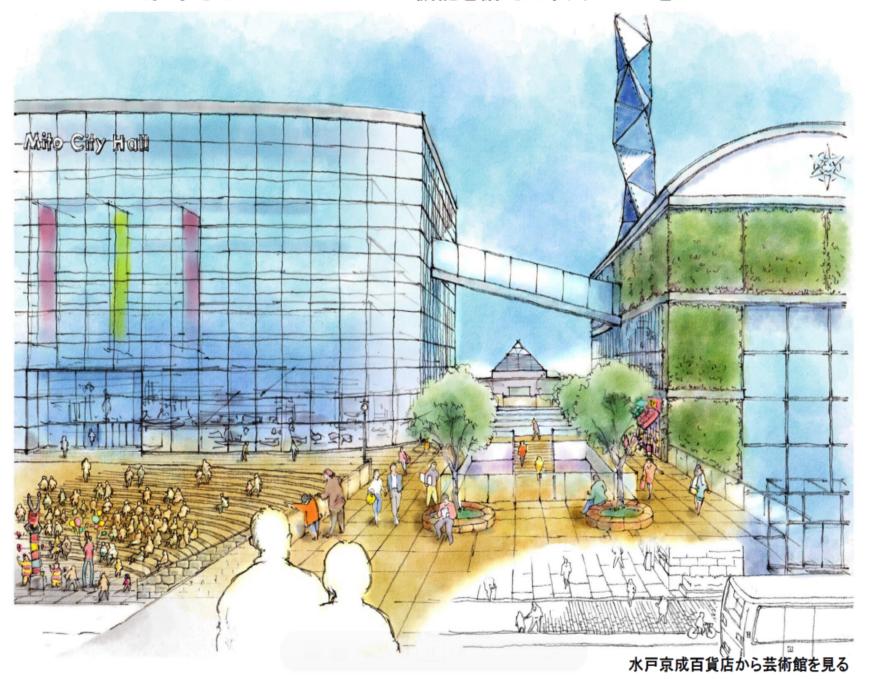


街なか歩き



ダイエー問題への対応

### 泉町北地区にコンベンション機能を備えた市民ホールを!



# 休日は歩行者天国にしてイベントや市場でにぎわいを!



# オセロでまちづくりを!

# 水戸オセロプロジェクトいばらき推進委員会

2005年9月に発足したオセロを通しての全県的まちづくり推進組織

水戸で生まれた茨城の宝「オセロ」が有する

コミュニケーションのバリアフリー・ツールとしての特性を活かし

多くの人々の間に友情を育み、豊かな地域づくりを進める

組織:国際交流、観光、商工業、社会福祉、高齢者、女性、青少年育成、公益法人、

大学、専門学校、マスコミなどの、多様な組織による横断的組織

(仲間たち:市役所や県庁の若手、若手社会人、オセロ好き)

活動:イベント部会、広報部会、普及促進部会、オセロミュージアムの運営

第30回オセロ世界選手権大会(2006年10月5日~8日)

平成18年11月、茨城県よりイメージアップ大賞奨励賞を受賞

現在、平成28年開催の第40回オセロ世界選手権大会へ向けて準備中。





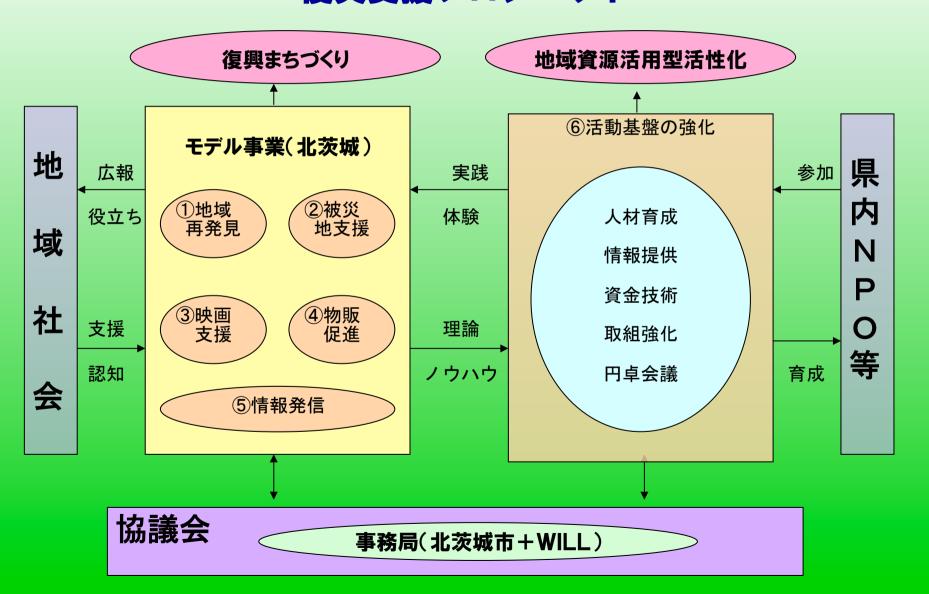


小学生大会



水戸オセロプロジェクト

# 平成24年度新しい公共の場づくりのための提案型モデル支援事業 天心が想い 大観が描き 雨情が詠んだ感動の故郷『北茨城』 復興支援プロジェクト



# 冲方丁『光圀伝』の大河ドラマ化へ

# 戦略1 ファンを増やす『光圀伝』を黄門様のスタンダードに!

県民を挙げて『光圀伝』を読み、足元からファンを拡大。そのために県内の書店、新聞、ラジオ、テレビと連携し「みんなで光圀伝を読もう!キャンペーン」を実施する。

# 戦略2 ツウを増やす 『光圀伝』に詳しい地元民を増やそう!

『光圀伝』について堂々と語り、その生き様や思想について語ることが出来るように。そのために郷土史家と連携し「みんなで光圀伝を解読しよう!特別講座」を実施する。

# 戦略3輪を広げる『光圀伝』の大河ドラマ化を盛り上げよう!

書店や郷土史家、マスコミや観光関連団体などと連携し、機運醸成プロジェクトを展開。そのために各種歴史講座や講演会の開催、史跡や博物館めぐりの開催、広報としてのパンフレットやかわら版の発行、のぼりやバッジなどの作成と販売、などを実施する。

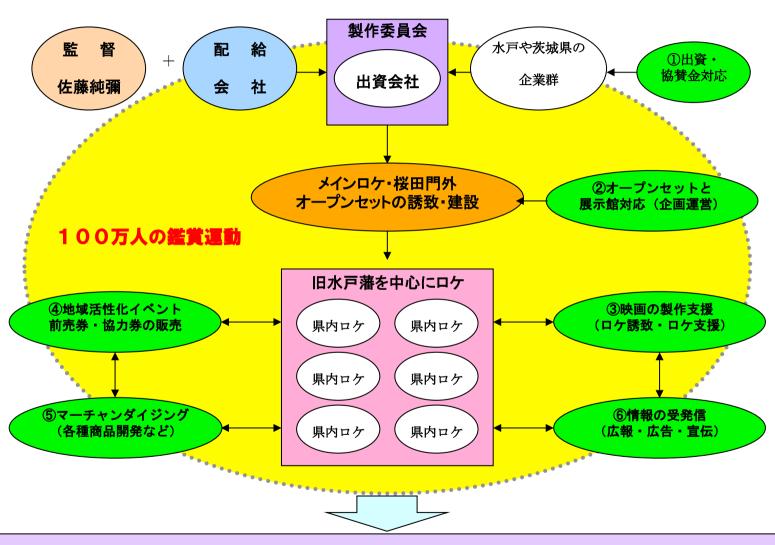






||光圀伝||登場人物紹介します!

# 映画『桜田門外ノ変』を起爆剤とした活性化活動



地域発案型映画づくりを起爆剤とした自発的・自立的地域活性化へ

# 日本再生

地域の独自性を活かした復興を!風土や特色を活かした自立を!小さな実績から積み重ねていこう!未来を具体的に作っていこう!

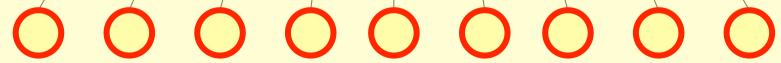
地域再生・日本再生のためのプラットホーム(思いを実践に)

## 日本再生プログラム推進フォーラム

日本再生とは21世紀の新しい文明の創造 日本の歴史が示唆する新しい時代へ進化 21世紀の文明はローカリゼーションから 共 生 新しい文明 進 化 多様性

日本発の健康と持続可能性の高い地球の建設

偉大なる共生社会の創造~共生とは進化なり~



民政自治:全国各地での民衆による取り組み

## うまくいかせる「構造構成主義」

#### 何だか分からないけど、うまくいかないことがある:その理由は?

- ·公平主義·前例主義
- ・批判回避バイアス・責任回避バイアス
- ·連帯責任
- ・正当性を担保できるか、という疑問
- ・状況変化しても方法を変えない
- ・運営し易さのためのルールが規範になっている
- ・方法の自己目的化
- ・成功体験の呪い・経験主義の落とし穴
- ・目的が不明確・目的がブレる
- ・明確な需要がないと動かない・でっち上げでも机上の需要があればOK
- ・需要創出型の事業は難しい

#### 構造構成主義(「ふんばろう東日本支援プロジェクト」西條剛央代表)

・方法とは、特定の状況で特定の目的を達成するためのもの

この原理原則を見失うと、価値のないことに陥る 出来るかどうか、ではなく、どうすれば達成できるか、を考える 組織や団体を作ることが目的ではなく、プロジェクトを

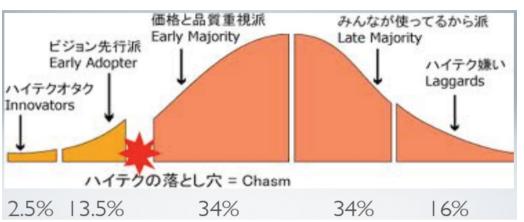
ピラミッド型の組織ではなく、ネットワーク型で

## 課題解決に向けてのリーンキャンバス

PROBLEM SOLUTION UNFAIR ADVANTAGE CUSTOMER SEGMENTS PROPOSITION 課題 圧倒的な 顧客 独自の セグメント 優位性 価値提案 ション (UVP) CHANNELS KEY METRICS EXISTING ALTERNATIVES **EARLY ADOPTERS** 主要指標 HIGH-LEVEL CONCEPT チャネル 代替品 コンセプト COST STRUCTURE REVENUE STREAMS コスト構造 収益の流れ アダプタ-コスト構造 収益の流れ

## 「課題」と「顧客セグメント」





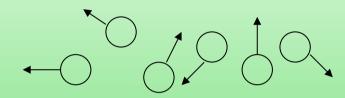
#### 

- ★ 1. 共感マップを参考に「課題」を挙げる(3つ)
- \* 2. その課題を持っていそうな「顧客セグメント」 (顧客の特徴・職業・情報・区分)を複数挙げる
- ★ 3. 顧客セグメントで最初に話を聞いてくれそうな「アーリーアダプター」を1つ選ぶ
- ★ 4. 課題を解決している「既存の代替品」を挙げる
  - ・ 「ソリューション」はまだ考えません!!

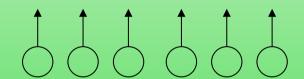
### まちづくりに関わる上で大切なこと

チームワークの醍醐味=相乗効果(Synergy:実力以上の力を発揮)

良くないチームでは・・・・・・ ⇒

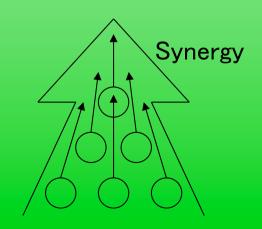


普通のチームでは・・・・・・・・・⇒



#### 素晴らしいチームでは・・・・・・⇒

方向性を一点に絞って相乗効果(Synergy)。 MissionやValueで、皆の努力、エネルギーを、 一つの方向に向けることが出来れば、 チーム全体としては大きな力となる、 利益が何倍にもなる。 ※潜在能力、エンパワーメント、学習する組織



### チームにとって共有すべき大切なこと

·Mission (役割), Value(志·価値観·行動規範), Vision(夢)

Mission:チームの目的, 何が目的か(Why)

なぜチームが存在する?何のために?役割,使命感,機能。

Value: 力強い理念, 核心の信条, 我々が誰であるか(Who)

信念、行動原則、ポリシー、志・価値観・行動規範は?

Vision:チームが長期に亘ってめざすビジョン(Dream)

何を達成したい?夢は?10年後は・・・?

・方向性の共有は難しくはない(スポーツの例)

Mission(役割・使命):何のために集まったチームか。

「サッカーをやるため」「野球ではない」

Value(志・価値観・行動規範):どんなサッカーをやるチームか。

「フェア・プレイ」「ダーティなサッカーはやらない」

Vision(夢):何を実現したいのか。

「ワールドカップに出たい」「健康のためではない」

### 意志決定のプロセス

#### ○意志は決定内容の良し悪しの前に、

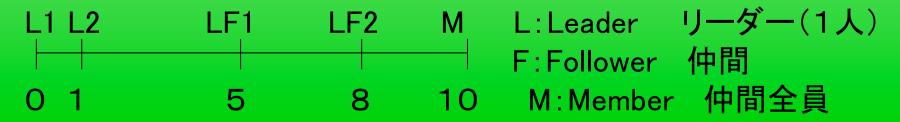
「決定方(誰法がどのようにして決めるか)」を決めることが大切。 リーダーが決めるか。チームメイトも一緒に考えて決めるか。

※問題をより良く理解することは、決定に要した情報によっても影響される。一緒に問題について考え、意志決定に参加すると、決定を受け入れてくれる。

#### ○前提となるリーダーの数は・・・?

いかなる場合でも、最終的な責任を負うリーダーは、公式非公式はともかく、「1人」。

#### ○意志決定方法のバリエーション



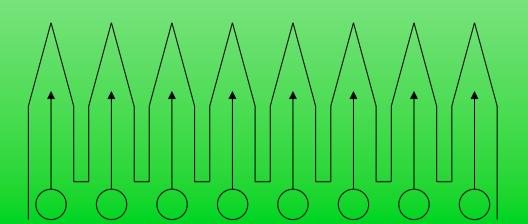
### コラボレーションする組織の基本

・役割を分ける?責任を分ける?

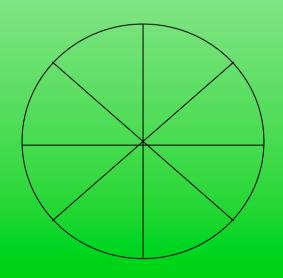
役割は分担する(Separate)
※個々の役割が集り全体を作る

責任は分かち合う(Share) つまり、責任は共有する ※全体を皆で分け合う

Separate



Share



### コミュニティデザイン

◆ひとがつながる仕組みをデザインすること

(東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科のホームページ より)

## コミュニティデザイナーの定義

- ◆地域の勿体(=そのものが持つ価値)を活かす仕事であり、 そのためにどのように人と人をつなげるべきか、 どういう地域資源と人とをつなげるべきかを考える仕事
- ◆地域にいる人たちが自分たちの地域の課題を共有し、 力を合わせてそれを乗り越えていくための お手伝いをする事



(atプラス18より)

### これからの都市とコミュニティ

- ◆都市を<u>コミュニティの集合体</u>に
- ◆加速する変化への対応は<u>小さな単位</u>でしか無理
- ◆大規模なシステムを長期間維持・変化させていくコストを負担するのも無理
- ◆価値観の共有により形成されるコミュニティに属することで 個人のアイデンティティが確立(安心感)
- ◆個性的
- ◆対等な立場で、参加型で自治を行っていく
- ◆ビジネスや社会活動も含めて、様々な<u>プロジェクトが自発的に発生</u>する

## 都市におけるコミュニティづくり

◆共空間の創出 シェアハウス(心をゆるす場)/コミュニティガーデン

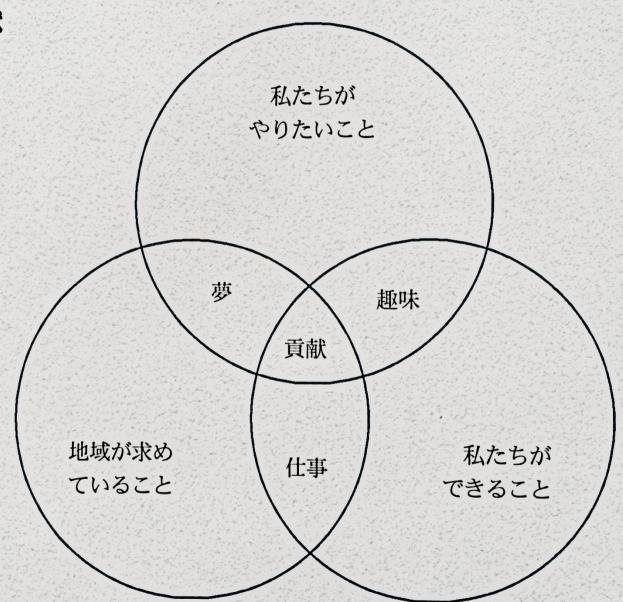
◆ビジネスを媒体としたコミュニティ コミュニティからビジネスが生まれる ビジネスを行うことでコミュニティが生きる



(たぬき村@世田谷より)

◆生活における問題を解決するコミュニティ (行政がみれない) 食べ物/育児·教育/自然環境

#### 私たちの社会貢献



### 第12期『地域のひな型研究会』

- (1)「21世紀のまちづくり」のバージョンアップとビジュアル化(「絵」づくり)
- (2) 絵巻の普及(絵巻の販売と絵巻カレンダー作製)
- (3) 日本再生ツールのバージョンアップと 実践的なアプローチの研究
- (4) 土地条件図の普及と活用
- (5) 先進事例研究・視察(ロハス研究会と連携)
- ※毎月1回勉強会を開催します。ぜひお気軽にご参加ください。